



# 「銀座線駅デザインコンペ」編

東洋初の地下鉄として昭和2年12月30日に浅草～上野間が開業した銀座線は開業から85年以上が経ちました。東京メトロではこれからも地域の皆さまに末永く愛される銀座線であり続けるため、銀座線リニューアルによる様々な施策を実施しています。

今回は、様々な施策のうちから、「銀座線駅デザインコンペ」についてご紹介します。

## 「銀座線駅デザインコンペ」とは

東洋初の地下鉄として東京の街をつないできた歴史を大切にしながら、先端の機能やサービスを取り入れ発信する路線として、【伝統×先端の融合】を路線コンセプトとし、銀座線全線のリニューアルを実施しています。

銀座線リニューアルにおいては、主に『ホームドアの整備』『新型車両の導入』『渋谷駅街区基盤整備に基づく渋谷駅移設工事』そして『エリアごとの駅リニューアル』があります。

駅のリニューアルにあたっては、ただ単に駅を改装するのではなく、これからも地域の皆さまをはじめ、たくさんの方から愛される路線となるよう、お客様にも一緒に駅づくりに参加していただければということで、当社では初めて、お客様からデザインを広く公募する駅デザインコンペを開催しました。

## 「銀座線駅デザインコンペ」の展開

路線コンセプトである【伝統×先端の融合】のもとに銀座線を下町エリア（浅草～神田）、商業エリア（三越前～京橋）、銀座エリア（銀座）、ビジネスエリア（新橋～赤坂見附）、トレンドエリア（青山一丁目～渋谷）の5つのエリアコンセプトに分けて、ホームドア、バリアフリーの整備、情報提供の強化といった機能的な価値の提供に加え、お客様から駅デザインを公募することにより、駅と地上の街とがつながるような空間づくり、各駅が持ち合わせている個性をデザインで表現し、地下鉄への期待感が感じられるような空間づくりを目指しています。まず、平成24年12月から、銀座線下町エリアにて駅デザインコンペを開催し、稲荷町・上野・神田駅をモデルとして沿線地域に在住・在勤される方など多数の方（96作品）から応募をいただきました。

下町エリアの駅デザインコンペ終了後、引き続き、オブザーバーとして外部有識者の協力を得ながら、鉄道本部長をトップとする『銀座線・駅デザイン部会』を立ち上げ、これらの受賞作品をもとにアイデアが実現できるよう、『駅デザインガイドライン』を作成し、①ラインデザイン、②エリアデザイン、③ステーションデザインの3つのコンセプトに策定しました。



## ラインデザインコンセプトは「ゆめ-plus・まち-ism」

「ゆめ-plus」には、東洋初の地下鉄として開業した当時の人々における時代の先端の乗り物・地下鉄に思い描いた憧れや、まちの発展とともに延伸した地下鉄に寄せた人々の期待や希望を甦らせ、「地下鉄に乗るというあの頃の夢・さらなる好奇心」を今日的表現方法によってもう一度抱かせてくれるような空間にしたいという思い、「まち-ism」には、地上から浅い作りをしている銀座線の特性に着眼し、「それぞれの駅がある街の地下1階」としての存在感を高め、お客様を地上に広がる街に自然と誘っていくような空間にしたいという思いが込められています。

ラインデザインコンセプト	<b>ゆめ-plus</b> あの頃感じた 心踊る 憧れ感	<b>まち-ism</b> 地上に広がる街への誘い
デザイン基本方針	① まちの要素を駅デザインに取り入れ、まちを感じられる駅にする ② 駅に様々なつながりをつくる ③ 建築・照明・ファニチャが一体となったトータルなデザインを展開する	
エリアデザインコンセプト	各エリアの地域性・特徴を表現することで統一感を持たせ、駅と地上の街とがつながるような空間づくりを行います	
ステーションデザインコンセプト	各駅が持ち合わせている個性を表現し、新たな銀座線の駅、地下鉄への期待感が感じられる様な空間づくりを行います	
	下町エリア 商業エリア 銀座 ビジネス ティンド	
	浅草 稲荷町 上野 上野広小路 末広町 神田 三越前 日本橋 京橋 銀座 新橋 虎ノ門 溜池山王 赤坂見附 青山一丁目 外苑前 表参道 渋谷	

## 第2弾！「望ましい経験」をテーマとした商業エリアコンペ

このたび、平成24年度に公募した下町エリアのコンペに引き続き、第2弾として、三越前駅から京橋駅までの商業エリアを対象にお客様から広く駅デザインを公募する「東京メトロ銀座線（商業エリア）駅デザインコンペ」を開催し、皆様から多くの提案（112作品）をいただきました。今回の商業エリアのデザインについては、『「東京メトロを利用すること」を単なる移動行動としてではなく一連の「経験」として捉え、東京メトロを利用することそのものを魅力的な「経験」とすること』をテーマにしました。

東京メトロは、東洋初の地下鉄として開業以来、東京の街をつないできました。86年の伝統を引き継ぎ、世界トップレベルの安全・安心を守りながら、洗練された空間とサービスにより、日本だけでなく世界中から訪れるお客様に「豊かな経験」を提供することを目指します。

ここでいう「経験」とは、お客様の移動行動の中で五感で感じるもの、受けるサービス、それによりもたらされる感情などの総体を指します。

出入口を認知し、切符を購入し、改札口を抜け、コンコースを歩いてプラットフォームに入り、電車の到着を待つといった一連の移動の中で、駅デザイン、車両のデザインをはじめ、サインや広告などの視覚に訴えるもの、アナウンスや発車ベル、お客様の話し声など五感で感じるものに加えて、利用するサービス、駅員とのやりとり、またそれにより湧いてくる心地よさ、喜び、発見などの感情すべてを含むものです。

### 実施スケジュール

3月24日（月） 募集要項公表

4月25日（金） 事前登録〆切

5月14日（水） 作品提出〆切

5月20日（火） 社内審査

5月29日（木） 一次審査

7月2日（水） 二次審査

7月25日（金） 結果発表・授賞式

## 応募総数112作品！メトロ社員130名による社内審査

5月14日（水）に作品の提出を締め切りました。作品の応募総数は、112作品と前回より多く、設計事務所等に勤務するプロの方はもちろん大学生や高校生など、最年少は16歳、最年長は81歳と幅広い世代の方から応募をいただきました。これらの素晴らしい作品をメトロ社員にも深く認知され愛着をもってもらいたいとの思いから、一次審査に先立ち、5月20日（火）、社員130名が全作品を対象に投票に参加しました。



社内審査の様子

### 【投票に参加した社員の主なコメント】

- ・発想が豊かで一枚一枚悩みました。どれもこれも素敵で良く考えられていました。（30代女性）
- ・それぞれ楽しく拝見しました。屋外の雰囲気・光・水・緑などを効果的に使うと、地下がこんなに面白く変わるのかと驚きます。（30代女性）
- ・「和」のテーマを取りつつ、近未来なイメージをうまく融合させた作品がとても印象深かった。（20代男性）

## 審査委員17名による厳正なる一次審査

一次審査は、5月29日（木）、メトロの役員等を始めとした社員14名と外部の審査員3名の計17名によって行われました。審査員は机に並べられた全作品について、ひとつずつ確認を行い、一次投票・二次投票を経て、議論を重ねたのち、一次審査通過作品15作品を選定しました。一次審査を通過した作品に対して、7月2日（水）にプレゼンテーションによる二次審査を行い、最終結果は7月25日（金）に予定している表彰式にて発表します。



一次審査の様子

### 【社外審査員とプロフィール】

#### □紺野 登

（多摩大学大学院教授兼知識イノベーション研究所 代表）

知識経営、デザイン思考をベースに企業のアドバイザーを務める。

#### □佐藤 卓

（佐藤卓デザイン事務所 代表）

「ロッテ キシリトールガム」「明治おいしい牛乳」等の商品デザイン、グラフィックデザインなどを手掛ける。

#### □松下美紀

（松下美紀照明設計事務所 代表）

日本全国のプロジェクトへ参画し、重要文化財の照明デザインなど幅広い分野の光環境を創出している。



これまでも。そして、これからも。  
もっと うれしい 東京に  
<http://tokyometro10th.jp/>

東京を走らせる力

